

周波数ひっ迫対策技術試験事務・平成25年度終了評価

案件名	実施期間	評価会での主なコメント	評価点
マイクロ波固定通信回線の高効率化に関する技術的条件の検討	H23-H25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小型化されたアンテナ一体型屋外設置送受信装置の有効性が明らかになり、その適用性が期待されることから、検討は有効であったと評価できる。</li> <li>・適宜技術基準への反映が行われており、また今後の方針も明確に示されている。</li> <li>・省電力化対策の面でも有益性の高い技術試験事務であり、無線機の低コスト化が需要を促進することになれば、その普及はさらに拡大されるものと期待されます。</li> </ul>	4.0
防災無線の高度利用技術等に関する調査検討	H22-H25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現行の16QAM方式に比べ15～20%程度のコスト削減が可能なデジタル防災無線の実現めどが得られたことは大きな成果と考える。技術基準の策定とともに、さらなる低コスト化が地方自治体などから期待されていると考える。</li> <li>・高機能な防災無線を必要としない市町村でも低コストで導入可能なデジタル化防災無線の試作及びフィールド試験に成功し、当初の目標は達成したと認められる。</li> <li>・低廉化に資する新たなデジタル式同報無線システムの導入のための制度化を図る予定であるなど、技術基準へ反映されている。</li> </ul>	3.9
近距離無線伝送システムの高度利用に向けた周波数共用技術の調査検討	H22-H25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワイヤレス電力伝送システムの制度化の検討のための技術基準策定のための基礎データとなるなど、成果が得られた。</li> <li>・技術基準作成のための基礎資料取得という目的は十分達成できている。これらのデータをもとに基準作りへの程度作りへの程度貢献できるかが今後の課題である。</li> <li>・利用モデルに基づく運用条件、周波数共用に向けた技術要検討等の調査検討に一定のデータ取得を行い、目標達成したと認められる。</li> </ul>	4.1
ホワイトスペースを活用した無線システムの周波数共用技術に関する検討	H23-H25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後検討されるホワイトスペースの技術基準策定上の基礎データとして有効な成果が得られている。VHF帯非常時システムの平常時活用については、多様な帯域利用が可能となるような技術基準とすることが望まれる。</li> <li>・多くの検討項目があり、項目ごとに異なる請負業者での検討であったが、成果目標は概ね達成されていると判断される。</li> <li>・TVホワイトスペースに関する周波数共用条件、共用技術について、モデルを構築し、電波伝搬特性の実験により技術的妥当性を確信している。当初の目標はほぼ達成されたと認められる。</li> </ul>	4.0
3.4-3.6GHz帯における第4世代移動通信システム(IMT-Advanced)の周波数共用技術に関する検討	H24-H25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4世代移動通信システムの導入により、益々新しいサービスシーンが広がると考える。市場への導入も近く、成果は有益であった。</li> <li>・3.4～3.6GHz帯における第4世代移動体通信の周波数共用条件を、当該業者が一堂に会して検討し、共用条件が提示されており、十分に目的を達成した。</li> <li>・3.4～3.6GHz(200MHz)を新規に追加可能となる技術基準を第4世代移動に与えられた実績は大きい。当初の目標は十分クリアできたものと認識される。</li> </ul>	4.0
9GHz帯航空機搭載型合成開口レーダの周波数有効利用技術に関する調査検討	H24-H25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・費用に見合った効率的な技術試験事務が行われ、社会的にも今後大きく期待されるシステム実用化への道筋が示された。</li> <li>・社会的にも有用な9GHz帯航空機搭載型合成開口レーダの実用化のための技術基準が適切に決められ、今後の無線設備規則などの規定改正への道筋が示されている。</li> <li>・技術基準策定のための基礎データの取得が行われ、技術的条件(案)の作成も行われており、妥当な成果が上げられていると思います。</li> </ul>	4.6